

2014年 3月 29日
NPO 法人 森を再生する会

水源の森を守ろう！ 取り戻そう！

— 目 次 —

- | | |
|---|--|
| ・日本の森は荒廃が続く・・・・・・・・・・ 1 P | ・2013年春の植樹祭と自然観察会・・・・・・・・・・ 8 P |
| ・永遠に継ぐ森づくり・・・・・・・・・・ 2 P | ・安城碧海看護専門学校がボランティア通信
第1号を発行しました・・・・・・・・・・ 9 P |
| ・地下水はどこからやってくるのでしょうか？
・・・・・・・・・・ 3 P | ・ある日の山作業の話・・・・・・・・・・ 10 P |
| ・危機的な山村・山林問題を考える・・・・・・・・ 4 P | ・設楽町納倉で間伐作業・・・・・・・・・・ 11 P |
| ・既に水戦争ははじまっている！・・・・・・・・ 5 P | ・お知らせ・・・・・・・・・・ 12 P |

水の危機がやってくる！

神谷 輝幸

I 日本の森は荒廃が続く

日本の森林の現状

日本は国土の67%が森林に覆われた森の国です。しかし、昭和30年ころから国の主導で行われた拡大造林政策によって始まった造林はスギ・ヒノキなど人工林が実に全森林の42%にもなり、その7割が手入れもされず放置されたままです。そのため林内は真っ暗となって荒廃し、奥山の生態系は崩壊寸前です。水源地・野生鳥獣の生息地として保全されていた奥山の広葉樹林は次々と伐採され、スギ・ヒノキなどの単一針葉樹だけが植え続けられました。この結果、一千万ha、日本の森林面積の42%の人工林が誕生し、現在、これらの造林地の多くは、国内林業の不振で放置され、荒廃の一途をたどっています。

荒廃した人工林は、外から見ると青々としており、何の問題もないように見えますが林内は昼でも暗く、地元の人たちが「緑の砂漠」と呼ぶように、下草も生えず表土が流れ、生き物のない死の森と化しています。このため、山は保水力を失い、各地で湧き水や井戸水が枯渇、川の水位も大幅に低下して、山崩れ、洪水などの災害を多発させるようになり、地元の人たちの生命や財産まで奪うようになってきています。又、野生鳥獣は餌場とすみかを失い、山から出てきては農作物被害を起こし、有害鳥獣として大量に駆除されており、事態は深刻化する一方であります。

身近なところで起こっていること

アユの季節になると新城市出沢に伝わる笠網漁が話題になります。豊川の清流を遡上するアユを網ですくう珍しいアユ漁です。この出沢の集落に住む90歳を超えてなお元気なおばあちゃんから聞いた話です。「スギ・ヒノキを植えてからこの集落の井戸は全部枯れてしまったよ!」とさみしそうに話されました。この集落の山も戦後の拡大造林で山の頂上や沢筋まで、すべての広葉樹は伐採され、全山スギ・ヒノキには変わりました。当時は、まだ、丸太、杭など間伐材が売れたので、間伐による現金収入で生活ができることを夢見ていたそうです。ところが、建築材料も石油製品や金属製品にとって代わり、建築用の木材も安価な外材が市場の自由化により輸入され、お金にならない山の作業は行われなくなり、荒れるままになっているのです。

不気味な最近の異常気象

最近日本の各地で異常気象による局地的な洪水や局地的な雨不足が起きています。山が荒れて保水力が落ちているので、山全体が緑のダムの役目を果たせず、一気に海へと流れます。下草も生えていない山、沢筋までスギ・ヒノキが植えられた山では沢筋に集まった鉄砲水が沢を削り、山崩れが起きています。

水不足の地域では、節水や断水が行われています。地球温暖化はこうした異常気象が起きることは以前から指摘されていましたが現実となってきました。

II 永遠に継ぐ森づくり

今、必要な行動

私たちは、素人ですが、こうした荒れた森の現状を見ると、いてもたっても居られなくて、生態系豊かな水源の森をめざして実践的な活動を行ってきました。

私たちが描く山の姿は、日本熊森協会が提唱するグランドデザインと同じものです。ここに描いた森づくりをめざして次のことを行っています。

- ①スギ・ヒノキの放置林を間伐し、広葉樹を植林する。
- ②奥山の自然林を購入し、水源の森トラスト地として次世代のために永久保存する。

山地利用のグランドデザイン



日本の荒れた山をどのように修正すればよいのでしょうか。日本熊森協会がそのグランドデザインを示しています。

①奥谷は、原生的な森に戻し、生態系豊かな水源の森、動物たちが安心して暮らせる場所とする。

②およそ800メートル以下の山は人間が利用する山として間伐等を進め、針葉樹と広葉樹の混交林とする。

③沢筋・急斜面は、土地本来の広葉樹に戻し、山崩れなど災害に強い山にする。

これこそが、未来永劫子孫に継ぐ森づくりです。

Ⅲ 地下水はどこからやってくるのでしょうか？

安城市の水道水

安城市の水道水は、70%は主に明治用水（矢作川）からの水ですが、30%は、地下水を汲み上げて利用しています。深井戸あるいは掘り抜き井戸と呼ばれる井戸で汲み上げる地下水は圧力が強く、地表面近くまで井戸水が噴出するほどです。ちなみに安城市内にある酒屋さんでは、6メートルほどの井戸から汲み上げた水を酒の仕込みに使用しており、水位は年中一定で水質も上等だそうです。

水源地はどこ？

ところでこの地下水はどこからやってくるのでしょうか。

水源地は恐らく、矢作川上流のはずです。地下水には圧力がかかっていますので、水源涵養地と安城市の間は、相当な標高差が必要です。根羽村と安城市の標高差は千メートル以上あります。地下水は1日1メートルの速さで私たちのところまで届きます。根羽村の水源地と安城市までは85キロメートルありますから、今飲んでいる井戸水は233年前に根羽村に降った雨水と言えます。

私たちが今、とるべき行動

昭和40年代に前述の**新城市出沢集落の井戸水が枯れてしまった**ということは**200年後には山から浸透して安城市にまで流れ着く地下水も枯れるか極端に減少することが十分予測されます**。そのとき、山を水源涵養林として整備しても遅すぎます。

私たち人間は、過去や現在に起きている事実から未来を予測でき、実行できる能力があります。日本の山が荒れている現状を考えると、私たちがとるべき行動は、二つです。

- 1、今ある自然林をすぐに保全すること。
- 2、放置林を間伐し、頂上部分は、自然林に戻すこと。

今、行動しなければ手遅れです。

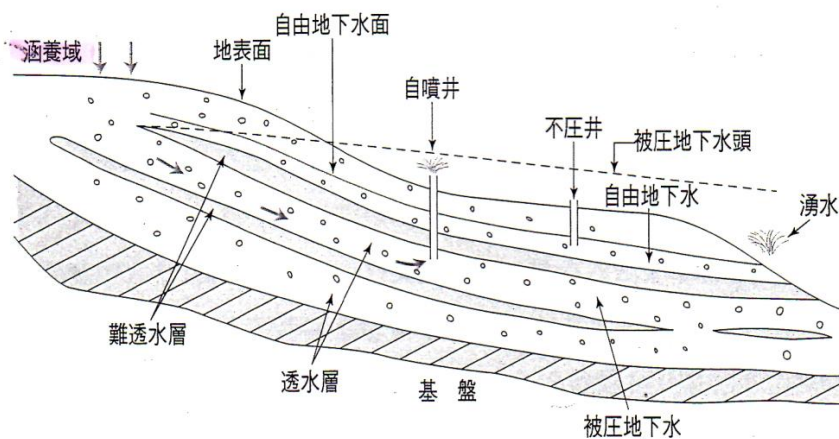


図43 地下水のあり方を示す模式図

流域は一つ、運命共同体！

危機的な山村・山林問題を考える

神谷輝幸

1、山村の人口流出と高齢化

	1995年	2010年	増減	
根羽村	3,282人	1,129人	-2,153人	山村
豊根村	5,499人	1,336人	-4,163人	
東栄町	11,567人	3,757人	-7,810人	
安城市	52,820人	180,000人	127,180人	都市
刈谷市	52,483人	145,781人	93,298人	

上記の表は、1995年と2010年に行われた国勢調査による人口の比較です。根羽村、豊根村、東栄町の山村人口は軒並み大幅な減少です。それに反して、安城市、刈谷市の都市人口は、大幅に増えています。日本の人口は総じて、山村部は減少し、都市部へと流入しています。深刻なことは、山村の若い人が都市部へ移住しているため、山村部は高齢化が顕著に進み、山村部の人口減少に拍車がかかっていることです。山村の高齢化のため林業に従事する人口も当然減少して、山の手入れはますますできない状況です。今後、山はますます荒れていくことが目に見えています。

2、H12 東海豪雨から学ぶこと



左の写真は、平成12年9月11日～12日にかけて、名古屋市を中心とする東海地方に2日間で600ミリ近い記録的な集中豪雨による被害状況を示した写真です。国道418号沿いの上矢作町達原で「沢抜け」と言われる山崩れが起きました。山野沢筋に一気に流れ込んだ雨水が山を削って大量の土砂が川に流れ込みました。

私が当時勤めていた安城西中学校のビオトープ池は明治用水の水を引いていましたが、見る見るうちに赤茶けた水が流れ込んできました。その水の変化から山崩れが起きていることが想像されました。職員にすぐ根羽村に行って現場を見てもらいました。私もその後、根羽村を訪ねると山の至る所に写真に見る沢抜けが見られました。役場近くの食堂で、昼食を食べていると、その店の主人が山崩れの様子を話してくれました。沢抜けはあちこちで起きましたが広葉樹のところは起きていない、という貴重な証言を得ることができました。


3、山林の将来への不安

日本の山林は、昭和30年代から拡大造林政策により、山の頂上や沢筋までスギ・ヒノキが植林されました。しかし、木材の需要自身が減少し、安価な輸入材が使われるなど、で日本の材木

は需要が減少しました。その結果、間伐は進まず、スギ・ヒノキの山林は荒れ放題になりました。その結果、東海豪雨のような被害も頻繁に起きるようになりました。今必要なことは、間伐を進め、生態系豊かな森に再生することですが、山間部の人口減少と高齢化のため山の仕事は進みません。

4、流域は一つ、運命共同体

都市部の人にとって山の存在は遠くにあるように見えますが、木材だけでなく、水や山の幸は都市に住む人にとって大切な資源です。海の幸も山からの水の豊かさで実りの豊かさが決まってきます。

そのことを示す分かりやすい例があります。三河湾のアサリ漁獲量は日本一です。そのわけは、豊川河口にある六条潟干潟で「あさりの稚貝」が大発生し、三河湾の漁師はそこから稚貝を獲ってきて三河湾に放流するからです。

最近、雨の降り方が地方により非常に偏っています。局地的な豪雨をもたらす地域と雨の降らない地域がはっきりしています。農業が盛んな安城市も毎年田んぼに引く水が制限されています。水源地の山が手入れされず、スギ・ヒノキの放置林となっているために保水力が落ちていることも大きな原因です。

今一番大切なことは、流域は一つにつながっており、運命共同体であることを流域住民が認識することです。山を守るために水の恩恵を受けている都市に住む人こそ立ち上がることだと思っています。

ならわれている日本の水資源

既に水戦争ははじまっている！

加藤 順弘

1、「水」は、人々の命を、直接的にも間接的にも支えているもっとも重要な「資源」

私たち日本人が、自然の恵みとして、古より大切にしてきた水。

“水が合う”とは、暮らしている土地の環境が自分の体に合うことを表す言葉。ほかにも立て板に水、魚心あれば水心、水を打ったように、寝耳に水、等日本には水に関する言葉が非常に多いです。私たちは毎日、水を飲み、水を使って食事を作り、洗濯をし、水を沸かして風呂に入ります。

水は生きていくためになくてはならない重要なものです。その水がいま世界では、アジア・アフリカをはじめとする途上国地域はもちろんのこと、先進国においても、世界の人々の命、生活、そして経済を考える上で、最重要事項が「水」の問題となっているのです。「水」は、人々の命を、直接的にも間接的にも支えているもっとも重要な「資源」です。

2、世界の水資源が2040年には限界に達する

昨年3月には米国家情報長官室が「世界の水資源が2040年には限界に達する」という報告書をまとめた。日本人が考える以上に世界の水事情は危機的です。

まず、「安全な飲料水の確保」は人々の健康や命の問題につながります。実際に、世界では毎年180万人の子供たちが不衛生な水等を原因とする病で命を落としていると言われていています。

なにせ安全な飲料水にアクセスできない人が世界では9億人弱もいるのです。

最近の報道によれば、中国人2億8000万人が安全でない飲用水を利用していると、環境保護部の研究で明らかになった。と伝えている。

次に「農業用水の安定供給」は食料の問題につながります。



干上がった中国最大の淡水湖**ポーヤン湖**。

3、水資源の確保に躍起になっているのが中国

世界的に人口の爆発的増加による水不足や、環境汚染などの様々な要因から淡水や地下水への需要は増えています。つまり今、水は「金になる木」になってきており、世界中が水源をめぐって競争を展開しているのです。企業は良質の地下水が出る世界中の水源を狙い、買い上げるためにし烈な競争を繰り広げているといいます。

数年前から、外国資本による日本の水資源の買収が相次いでいることが話題になっている事は以前にもお知らせしましたが、その事態はどんどん深刻化してきていると聞いています。特に水資源確保に躍起になっているのが中国です。

その中国が、チベット高原の水資源を確保すべく、複数の国にまたがって流れる河川の上流にダムを建設して、周囲の国々と摩擦を起こしています。また、食料生産には水が欠かせないことから農地買収にも積極的で、すでにアフリカや南米で大規模な農地を買収しています。

日本では数年前から、中国を始め外資系企業による森林の買収が表面化しているのです。表向きの購入目的はリゾート開発や資産保有などだが、本当の狙いは地下に眠る水資源にあるとも考えられています。

中国の企業は欲しいと思ったらあらゆる手段を使う。日本企業と手を組んだり帰化した人が購入すれば中国資本か分からないのです。そしてせっせと日本の水を中国に運んでいると言われて

4、500ccのペットボトル（エビアン）がなんと800円！！（上海空港で今年3月上旬）

先日海外旅行の経由地上海空港出発ロビーで、エビアンの飲み水500ccのペットボトルを購入しようとして、びっくりしました。なんと1本45元（約800円）もするのです。これホントなのです。



5、水源林を狙っているのは中国だけではない！

日本の水源林を狙っているのは中国だけではありません。中国と同様、水不足に苦しんでいるシンガポール資本による日本への投資も始まっていると聞いています。とあるシンガポール人投資家は「資産保有」を目的として長野県嬭恋村の森林を購入したが、隣接地から湧き出す水について「湧出量の4分の1」を使用する権利が設定されており、周辺住民は疑いの目で見ているようです。

林野庁と国土交通省の調査では、平成18年から24年にかけて、外国資本に買収された森林は68件で計801ヘクタール。東京ドーム約170個分に相当する土地が外国の手に渡っていたのです。

このような状況で、林業農家は苦悩しながら、なんとか先祖伝来の土地を守ろうとしますが、その一方で、土地を相続したものの、思い入れがなかったり、林業に興味がない人もいます。そういう人にとって森林は、管理費用と税金だけがかかる重荷でしかないのです。

「土地を売るな、水を奪われるな」と言う人がいる一方で、「土地を売りたい」「水を売りたい」という人もいます。

更にグローバル化が進むなかで、日本経済の活性化のために水資源を水不足に悩む国々に売らねばと考える代議士も多く、水資源をめぐる問題にはさまざまな思惑が交錯しています。

6、気候変動で危険なのは、水資源！

いわゆる地球環境問題の筆頭に挙げられる「気候変動」。実は温暖化を含め、気候変動で一番影響を受けるのが「水」資源です。降雨のパターンが従来と変わり、渇水や洪水が起きやすくなっているように感じます。途上国ばかりでなく、日本においてもここ数年水の被害に関するニュースは後を絶ちません。

不幸なことにわが国では雪国を除くと、降水の約半分が梅雨と台風により集中的に降り、かつ、山が多く地形が険しいので、降った水は流れ出すのが速いのです。日本の川の流域では数百mmの降雨があっても、数日でその大部分が海に戻ってしまいます。この傾向は流出時間の短い中小河川流域でとくに著しく、降水量が平均を上回る北九州や沖縄で、渇水がたびたび起こるのはそのためです。



7、子孫のために、いま行動を！

人間は特に日本人は、最悪状態を目の当たりにしないと動かないと言われていました。

3年前に起きた福島原発事故は、事前に津波が来た場合に危ないとわかっていながら、何もアクションをとっていなかったのです。

身近な水も今のままでは危険なのです。今から対応策を進めることが大事なのです。

以上のようなことをひとりでも多くの人に納得していただき、荒れた山を水持ちの良い広葉樹林に変え、また現存する広葉樹林は一刻も早く「水源の森」として維持管理することに、力を貸していただきたいのです。

イオン環境財団助成事業 2013年春の植樹祭と自然観察会

加藤 順弘

今回は5月26日に1万本植樹の記念植樹祭が、横浜市立大学教授藤原先生をお招きして、絶好の好天に恵まれた中、作手町巴山間部にて約 100 名の参加のもとに約 1,000 本の苗を植樹しました。また午後からは藤原先生の説明で、作手の里山の自然観察会も約1時間半ほど行われ、見聞を広めました。



植樹祭の様子





自然観察会の様子

安城碧海看護専門学校がボランティア通信 第1号を発行しました

安城市医師会安城碧海看護専門学校
環境ボランティアグループ
2回生 堀江 綾子

5月26日、新城の作手村で植樹祭がありました。
本校からは教員4名、学生13名が参加し、全体では100名
近くの方が参加されました。

その土地に古来よりある植物を植え、生態系豊かな本来の
山の役割を取り戻すことをスローガンとし、山の斜面に
アカガシ、シラカシ、マツ、コナラなど主に広葉樹を運び、
約1000本の苗を植えました。「豊かな森は、豊かな水や命
を産み、それは行く行く人に還ってくる。」同行されていた
大学教授の藤原先生のお話に変な共感しました。

とかく近年の世は利益優先、便利さを重視するあまり、長く待つことや見守ることを忘れてしまいがちですが、私たち人間が真の意味で豊かに生きていくためにも、このような森を育てる活動は大切だと思いました。また、活動を終えたあと澄んだ空気のなか頂いた、山菜おこわや朴葉の上に乗った五平餅はとて美味しかったです。



今後もこのような活動を通じて、美しい自然を未来のこどもたちに残していけたらと思います。



ある日の山作業の話

豊橋 長澤 勇吉

山作業は毎年12月から2月までの冬のシーズンは作業をしません、3月の第4日曜日から再度スタートします。毎月第4日曜日山好きな人達が作手や名倉に集まり、おいしい空気を吸っております。山のふもとに春が来て、その一歩か二歩遅れて木々が芽吹き、浅い緑から濃い緑へ、そして白い花や色づいた花を見せてくれます。毎回足を運ぶたびに山の色合いが変化するのを楽しみにしております。山桜、山つつじ、山藤等を皆様にも見せてあげたい。自然と親しむ森林浴効果だけでなく心が癒されます。

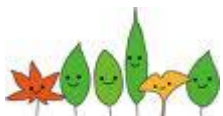
ここ数年作手で植樹をしておりますが、せっかく育った若い芽を、鹿かうさぎに食べられる被害があり、大崎さんが知多半島の漁師さんより古い魚網を安価に入手し、一昨年6月に張り巡らしましたが、今年の春の植樹祭の際、間伐作業の障害にならないように張りつめた網



を地べたへおろしました。植樹祭終了後改めて下へ置いたネットを元に戻す中、ほころんだ部分を補強しながらの作業を、神谷理事以下7名でしました。その際気持ちだけは張り切っておりますが、足が追いついて行かない感じ。山の入り口の所で、もう息が上がっている人もおり、総がかりでトラロープを張り、同時にネットも整えて行く作業手中、例のごとく、あーでもなく、こーでもない、の大合唱。木に結わえるヒモの結び方をせっかく教えたのに、その通りにやらない！との抗議の声が上がり、船頭多くして船山に登るですが、もうすでに皆な山に登っております。午前中で終了したかったのですが、斜面である事とネットの傷みが激しく、少し残して昼からやろうと午前の分終了。午後にあまり残したくなかったが、暑くてしんどかったので引き上げ、昼食をして雑談がもりあがった。

雑談のひとつを紹介。メンバーの一人がNHKののど自慢に出たいとの話が。それでは山作業の一員としてきこりの歌を歌ったら！ えーそれは何、もしかして北島三郎の「与作」のことですか？ はいそうです。こんな罪のない話を長々と。

デザートも豊富でゆったりしていましたが、午後の作業の開始の掛け声。早いのではと少数の声。13時を過ぎていたので、無駄な抵抗をやめ全員山へ登り、余った作業を実施したあと、ネットとトラロープを引き上げ帰り支度。今日は人数が少なく犬の手も借りたい心境でしたが、



小河さんのところのペット犬“マリア”さんは、間伐作業時も危ないところに来ては作業を妨げる。本人は一生懸命応援しているつもり。そして無事作業終了。

毎回冬のシーズンは動物のえさがないため、若芽を食べる。苗木の保護も我々の仕事です。これだけ山のふもとの空気が汚染されて来ると、山の木々を針葉樹から広葉樹にする運動も急がれます。森を再生する事やおいしい空気を作る等を考えると、木を育てる意義を見出せます。どうぞ皆さんの参加をお待ちしております。

設楽町納倉で間伐作業

加藤 順弘

NPO森を再生する会所有の設楽町納倉の山林で、エスペックミック（株）の吉野知明氏とともに、7月14日24名が参加し、巻き枯らし間伐が行われました。

ここでは吉野氏の指導のもと、巻き枯らし間伐の最適な方法を検証するために、3種類の皮むきの方法を実施しました。その効果を調査するための観察会を3回行いました。その調査結果は報告書としてまとめました。総会にも用意しますが、出席できなくて希望される方はご連絡ください。郵送いたします。



家族で植樹に参加できて幸せ！

加藤由紀子

今年も初詣に始まり、事あるごとに拝ませていただく東端町の正一位城山稲荷の御手洗の井戸が、昨年枯れてしまい非常に残念でなりません。清水の湧く榎前町と油ヶ淵の中間に位置しているのに何故かな？水不足の兆候のあらわれかな？

このところのどかな雨で三寒四温とともに季節が徐々に移り変わりゆく中、花粉の飛散情報や、PM2.5のニュースを聞くと、外出を極力控える人もいることともありますが、私たち家族が健康で山仕事に参加させてもらえることに感謝します。1万1本目の植樹が楽しみです。



お知らせ・お願い

総会開催の案内

開催日時 H26年4月25日(金) 18時30分から

場 所 安城市市民交流センター

(詳細は同封の総会開催通知を参照下さい)

定例活動日(間伐作業等)の実施案内

【活動場所】 新城市作手高里 小川智彦氏所有山林
または設楽町納倉の山

【活動実施日】 毎月第4日曜日

【集合時間】 午前8時

【集合場所】 歴史博物館駐車場

以上、都合がつく方の参加をお願いいたします。

同封の振込用紙記入時のお願い

年会費・寄付金の振込時振込用紙のメモ欄に

●年会費 ○○○○○円と記入してください。

●寄付金 ●●●●●円と記入してください。

* 寄付金の受付 *

次の方から貴重な寄付金をいただきました。山の購入資金として積み立てます。

- | | |
|---------|-----|
| ・神谷俊治 様 | 1万円 |
| ・大田 進 様 | 1千円 |
| ・神谷守 様 | 5千円 |
| ・丸山光夫 様 | 5万円 |
| ・遠山松枝様 | 2万円 |

心より厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。